

SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組み



SDGs（エスディージーズ）とは、「Sustainable Development Goals」の略称で、日本語で「持続可能な開発目標」と訳され、2015年9月に開催された国連サミットで、加盟国の全会一致で採択された「2030年までに、より良い社会を実現するための、国際社会全体」の目標で、17のゴール、169のターゲット、232の指標で構成され、2030年を年限とし、地球上の「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を目指しています。

小平・村山・大和衛生組合（以下「組合」という。）では、SDGsの趣旨を踏まえ、次に掲げる事業の取り組みを通して、廃棄物処理施設としての役割である廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化、埋立量の減量化を推進し、良好な生活環境の維持と、限りある最終処分場の延命化を図り、地球環境の保全や周辺の地域・環境との調和など、循環型社会に向けた環境調和を推進し、持続可能な社会の実現に貢献できるように努めてまいります。

【SDGsに係る取組事業】

事業名	事業内容	主なSDGs
新ごみ処理施設の整備	高効率ごみ発電施設を備えたエネルギー回収型廃棄物処理施設の建設	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに, 9 産業と技術革新の基盤をつくろう, 11 住み続けられるまちづくりを, 12 つくる責任 つかう責任, 13 気候変動に具体的な対策を
電気自動車の普及啓発	庁用車をガソリン車からEV自動車への買換え	9 産業と技術革新の基盤をつくろう, 11 住み続けられるまちづくりを, 12 つくる責任 つかう責任, 13 気候変動に具体的な対策を
省エネルギーの推進	ごみ処理施設の運転に係る電力、燃料等を低減する省エネルギーの推進	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに, 11 住み続けられるまちづくりを, 13 気候変動に具体的な対策を

事業名	事業内容	SDGs とのマッピング
ごみの適正処理・リサイクルの推進	ごみ処理過程における再資源化に取り組み、最終処分量を削減するとともに、不燃・粗大ごみからの金属類や小型家電のリサイクルによる再資源化	
公害の防止、周辺環境美観の向上	ダイオキシン類等の有害物質の発生及び排出の抑制を継続させるとともに、振動・騒音や悪臭などの発生をなくし周辺環境の美観の向上	
焼却熱の有効利用	ごみ焼却炉の余熱で温めた地下水を足湯施設（こもれびの足湯）に有効活用	
自然エネルギーの有効利用	不燃・粗大ごみ処理施設の太陽光発電及び資源物中間処理施設の太陽光採光装置による自然エネルギーの有効利用	
屋上緑化による電力使用量の削減	資源物中間処理施設の屋上に緑化を施し、電力使用量を削減	
環境負荷軽減のための知識の習得	環境負荷の継続的軽減に関する知識や技術を習得、先進施設への視察の実施	
紙使用量の削減	コピーの利用抑制や両面使用、ペーパーレス会議システムに、ペーパーリユース複合機による紙の使用量の削減	
庁内グループウェアシステムの導入	紙のタイムカード、休暇・時間外勤務申請書等を廃止し、事務の電子化・効率化を推進	
カーボンオフセット型自動販売機の導入	組合に設置している自動販売機の消費電力に相当する二酸化炭素排出量を再生可能エネルギー由来の電力と相殺（カーボンオフセット）	
債券（SDGs 債）の購入	基金の効率的な運用管理と残高確保のため、環境分野への取組等に貢献する事業に充当される債権を購入	